

# 第 34 回環境アセスメント動物調査手法講演会

日本環境動物昆虫学会生物保護とアセスメント手法研究部会では、1991 年から環境アセスメントや野外調査に従事されている技術者・研究者の方々を対象に、昆虫、野鳥、その他の動物の調査手法やデータ解析法を解説しています。調査技術の一層の向上と野生生物の保全を目指し、毎年講演会を開催しており、今年度で 34 回目を迎えます。

今年度は、オンラインと対面のハイブリット形式とし、3 件の話題提供と致しました。今回もできる限り最新の情報を踏まえた内容となるよう、企画いたしました。環境アセスメントや野外調査に従事されている方々にとって、有益な内容となっております。日本環境動物昆虫学会の会員の皆様だけでなく、非会員の皆様にもぜひ奮ってご参加頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

**主催** (一社) 日本環境動物昆虫学会

**日時** 2025 年 6 月 29 日 (日) 13:30~16:50 ※12:00 までは入場できません

**場所** 大阪公立大学 I-site なんば (大阪市浪速区敷津東 2-8-1 南海なんば第一ビル 難波・大国町近く)  
全館 飲食禁止 (ペットボトル可、蓋つきのカップのコーヒー不可)、建物内、周辺も禁煙

**開催方法** 現地会場ならびにオンライン (Zoom) によるハイブリット開催を予定しております。

オンラインの受講を希望された参加者様には、Zoom ID と PW をメールにてお送りいたします。

**企画運営** 生物保護とアセスメント手法研究部会

上田昇平 (部会長)、今井健介、加藤敦史、江田慧子、千々岩哲、中上喜史、林 成多、  
平井規央、松野茂富、八尋克郎、渡辺黎也

**内容**

**日本産アリヅカムシ (コウチュウ目ハネカクシ科) の生態・調査法・分類同定 (13:35~14:35)**

**野村周平 (国立科学博物館)**

アリヅカムシはコウチュウ目ハネカクシ科の 1 亜科で、日本から 85 属 368 種 23 亜種が記録されている。多くの種は土壌性で、一部の種が好蟻性あるいは洞窟性である。本講演では日本産アリヅカムシの分類同定、生態、採集法について解説する。

**チョウの撮影画像からの雌雄判別について (14:40~15:40)**

**小田康弘 (日本チョウ類保全協会)**

チョウの調査・観察では目視による種識別には、近縁類似種間では限界があり、また同種内でも目視による雌雄識別は容易ではないことが多い、今回は写真撮影を前提にした場合の雌雄判別の要領と事例を紹介する。

**紀伊半島におけるヤンバルトサカヤスデの侵入地の調査からみえてきたもの (15:45~16:45)**

**澤島拓夫 (近畿大学農学部)**

台湾を原産とする外来種ヤンバルトサカヤスデが近年、関東以西の日本各地に分布を広げつつある。ここでは和歌山県での本種の侵入状況とその調査で明らかになり始めた他の生物群集に与える影響について報告する。

**参加費**

会員 3,000 円 (個人会員、法人会員 (維持・賛助) の企業及び団体に所属されている方)

非会員 4,000 円 学生 2,000 円

参加費振込先: 三菱 UFJ 銀行 信濃橋支店 日本環境動物昆虫学会 普通 0264018

**申込方法**

参加費を振込の上、件名を「環境アセスメント講演会申し込み」とし、下記の①~④の項目をメールに記入して、E-mail アドレス **【kandoukon@outlook.jp】** までご送付ください。

①氏名 ②ご所属、住所、メールアドレス、電話番号

③会員種別 (本学会員 (正、賛助、維持、学生)、非会員、学生) ④参加方法 (対面、オンライン)

後日、受付完了の返信メールをお送りします。1 週間以内に返信メールが届かない場合は、お手数ですが再送信をお願いいたします。